

平成28年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

確かな学力をめざし、主体的に学ぶ児童の育成
～思考力・表現力を高める授業づくりを通して～

研究目標

「確かな学力をめざし、主体的に学ぶ児童」を育成するために、国語科と算数科において、思考・表現する活動を取り入れ、「自分の考えをもつ」「学び合い」を大切にしたい授業づくりと学習指導の方法を実践を通して明らかにしていく。

研究仮説

国語科と算数科の学習において、「見出す場」、「調べる場」、「深める場」、「まとめあげる場」の充実を図ることで、基礎・基本の力が身につく、自分の考えを進んで深めたり話したりすることができるだろう。

◆仮説検証のための具体的な手立て

○授業改善

◇「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムの実践

〈国語〉 **見出す**…単元計画を掲示し課題を明確にし、単元の見通しをもつ。

調べる…教科書で学んだことなどをもとに、自分の思いや考えを表現する。

深める…自分で表現したものを伝え合ったり、全体で話し合ったりして学習を深める。

まとめあげる…学習を振り返らせる場面を設定する。

〈算数〉 導入→見通し→自力解決→比較検討・学び合い→まとめ→適応題→ふりかえり

見出す **調べる** **深める** **まとめあげる**

◇「深める場」の工夫 ◇少人数指導やT T指導の効果的な配置



○基礎・基本の定着と学力向上のための取組

◇朝の読書

◇ドリルタイムの効果的活用

- ・「ちばっ子チャレンジ100」の活用
- ・視写チャレンジ

◇学校行事の感想

◇家庭学習の習慣化

- ・家庭学習カードの作成
- ・各クラスの模範の自学ノートの掲示

◇家庭との連携

- ・横芝光町「家庭学習の手引き」の活用
- ・「学習便り」の発行



成果につながっている取組

- ・4つの学習プロセス（調べる・まとめあげる）の浸透
- ・算数科の授業における全クラスT・T、少人数による指導
- ・ドリルタイムの取組を曜日によって固定（チャレンジ100の活用の増加）
- ・自学ノートに取り組む児童の増加
- ・「書く力」の向上



今後の課題

- ・学習プロセス「深める場」の工夫
- ・学びの突破ロガイの継続的な活用
- ・学習便りの定期的な発行